

Confidential



丸文株式会社 2023年3月期 決算説明

2023年5月18日



東証プライム市場 7537

© 2023 MARUBUN CORPORATION

2023年3月期 通期業績についてご説明いたします。

1. 2023年3月期 連結決算の概要

2. 2024年3月期 通期業績予想の概要

3. 株主還元

4. 中期経営計画の取り組み状況

5. 参考資料

ご説明いたしますアジェンダはご覧の通りです。

1. 2023年3月期 連結決算の概要

2023年3月期 決算サマリ（前期比）

- ▶ 売上高は、民生機器や産業機器向けの半導体・電子部品が増加し大幅に増加
- ▶ 利益面では、売上の増加に加え、円安進行による円換算ベースでの売上総利益の押し上げにより、各利益ともに上場来の最高益を更新

(百万円)	2022年3月期		2023年3月期		前期比
	実績	売上比	実績	売上比	
売上高	167,794	—	226,171	—	+58,377 (+34.8%)
売上総利益	20,251	12.1%	27,264	12.1%	+7,013 (+34.6%)
販管費	14,257	8.5%	16,267	7.2%	+2,010 (+14.1%)
営業利益	5,994	3.6%	10,997	4.9%	+5,003 (+83.5%)
経常利益	4,106	2.4%	7,909	3.5%	+3,803 (+92.6%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,437	1.5%	5,201	2.3%	+2,764 (+113.4%)



2023年3月期の連結売上高ですが、前期比583億円、34.8%増加の2,261億円となりました。

これは、デバイス事業で民生機器や産業機器向けの半導体・電子部品が増加するとともに、システム事業でも産業機器をはじめとした各分野で売上が伸長したことによるものです。

利益面では、売上の増加要因に加え、期初からの為替の円安進行により円換算ベースでの売上総利益が押し上げられたため、売上総利益は前期比70億円、34.6%増加の272億円、営業利益は人件費や営業活動経費の増加があったものの、前期比50億円83.5%増加の109億円となりました。

また米ドル金利上昇による支払利息の増加や、期初からの円安進行による外貨建て借入の返済に伴う決済差損の計上により営業外費用が13億円増加しましたが、経常利益は前期比38億円、92.6%増加の79億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比27億円、113.4%増加の52億円となりました。

これにより、営業利益、経常利益、当期純利益の3利益ともに、上場来の最高益を更新することができました。

2023年3月期 決算サマリ（業績予想比）

Confidential

- ▶ 売上高は民生機器向け半導体が好調に推移したことにより上振れ
- ▶ 売上の増加に伴い、営業利益・経常利益・当期純利益も予想を上回る利益を計上

(百万円)	2023年3月期予想 (2023年1月発表)		2023年3月期		業績予想比
	予想	売上比	実績	売上比	
売上高	220,000	—	226,171	—	+6,171
売上総利益	26,500	12.0%	27,264	12.1%	+764
販管費	16,500	7.5%	16,267	7.2%	△233
営業利益	10,000	4.5%	10,997	4.9%	+997
経常利益	7,000	3.2%	7,909	3.5%	+909
親会社株主に帰属 する当期純利益	4,350	2.0%	5,201	2.3%	+851

次に業績予想との比較につきましてご説明いたします。当社は2023年1月の第3四半期決算発表時に、2回目となる業績予想の上方修正を発表しました。

1月の発表では期初に公表した業績予想に比べ、売上で250億円、営業利益で49億円、経常利益で25億円、当期純利益で24億円それぞれ上積みした予想値を公表いたしましたが、今回の着地は売上高でさらに61億円、営業利益と経常利益でそれぞれ9億円、当期純利益で8億円上回りました。

これは、民生機器向け半導体が好調に推移したことが主な要因です。

2023年3月期 事業別決算サマリ

Confidential

※ 2022年3月期実績は、3事業再編後の数値に組み替えております

■ デバイス事業

(百万円)	2022年3月期※	2023年3月期	前期比 (増減率)
売上高	117,442	168,872	+51,430 (+43.8%)

■ システム事業

(百万円)	2022年3月期※	2023年3月期	前期比 (増減率)
売上高	48,230	54,494	+6,264 (+13.0%)

■ ソリューション事業

(百万円)	2022年3月期※	2023年3月期	前期比 (増減率)
売上高	2,121	2,805	+684 (+32.2%)



© 2023 MARUBUN CORPORATION

5

次に、売上高をセグメント別に分けてご説明いたします。

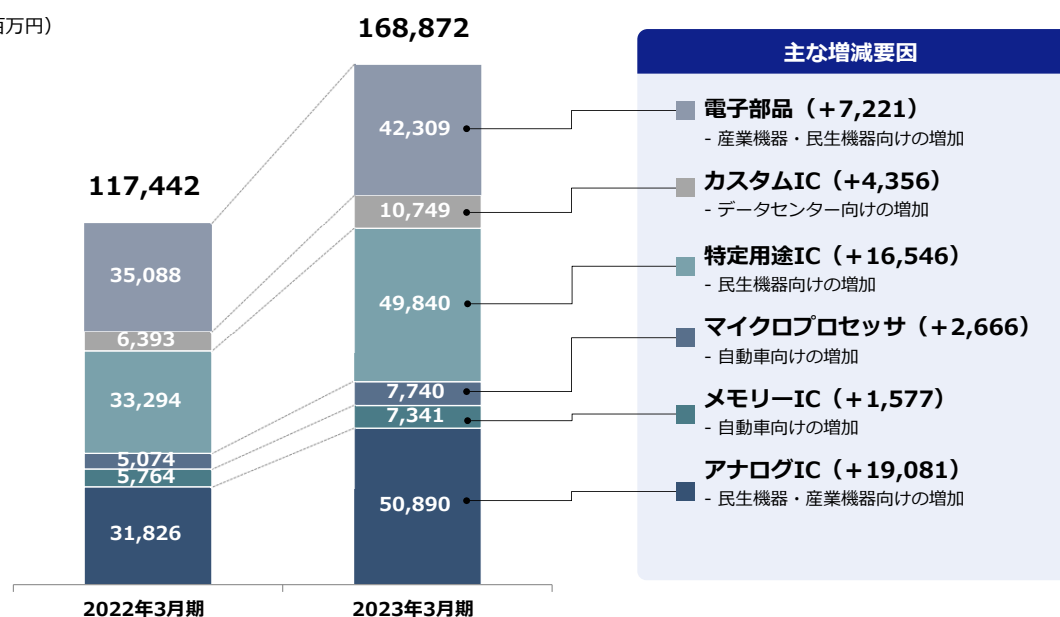
なお2023年3月期よりソリューション事業を新設しセグメントを再編したため、2022年3月期の実績値を3事業に組み替えて表示しております。

業績サマリですが、デバイス事業は、前期比514億円、43.8%増加の1,688億円、システム事業は、前期比62億円、13.0%増加の544億円、ソリューション事業は前期比6億円、32.2%増加の28億円と各セグメントともに増収となりました。

2023年3月期 『デバイス事業』 品目別売上高

Confidential

(百万円)



デバイス事業の売上を、品目別・用途別にご説明いたします。

増減額の大きいものについて、ご説明いたします。

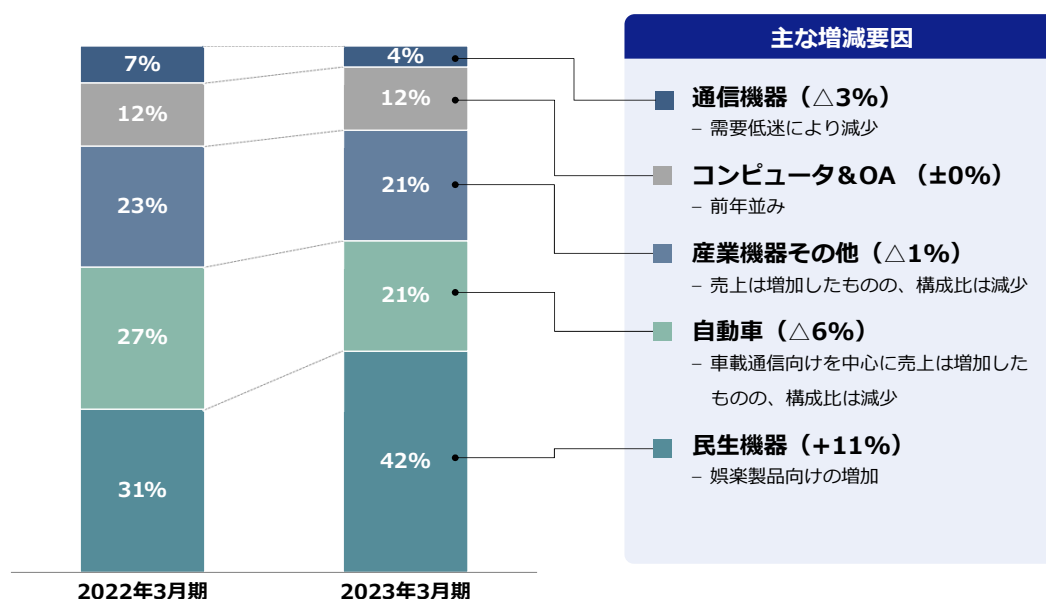
品目別では、アナログICが前期に比べ190億円の増加、特定用途向けICが165億円増加と大幅に伸長しました。

アナログ・デバイス社やヌヴォトンテクノロジー社などの新規仕入先製品の取扱いを開始し商権が拡大したことで、民生機器向けや産業機器向けが大きく増加したことによるものです。

また電子部品でも、新規案件の獲得が進み、民生機器向けや産業機器向けが増加しました。

2023年3月期 『デバイス事業』 用途別構成比

Confidential



デバイス事業の用途別動向は、ご覧の通りです。

用途別の売上比率では、民生機器向けが新規商権の獲得や需要増により11ポイント増加した一方で、通信機器向けは3ポイントの減少となりました。

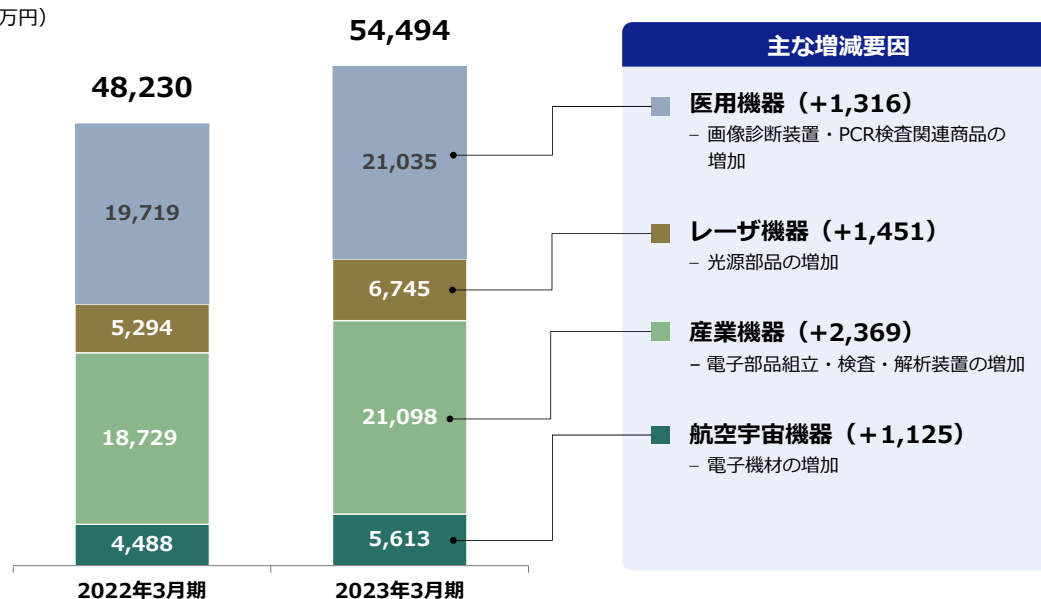
また自動車向けは6ポイントの減少となりましたが、売上高は前期比30億円増加しております。

その他の用途につきましては、構成比に大きな変動はないものの、いずれも売上高ベースでは伸びております。

2023年3月期 『システム事業』 品目別売上高

Confidential

(百万円)



次にシステム事業についてですが、期初の受注残が250億円と高水準でスタートしたこともあり、全品目が増収となりました。

産業機器は、設備投資需要の増加に伴い、電子部品の組立・検査・解析装置が増加しました。

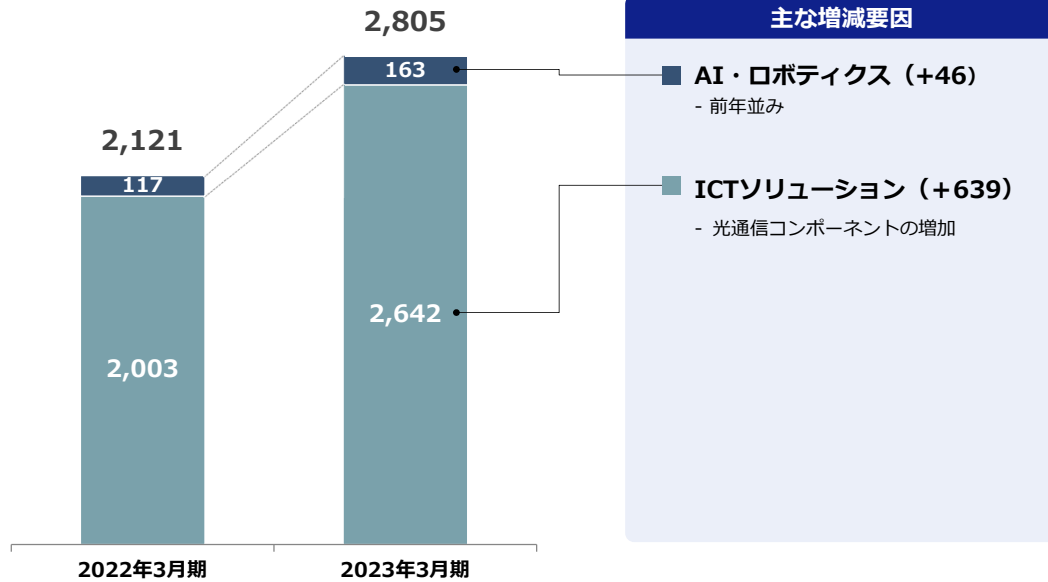
レーザ機器の増加は光源部品が好調に推移したことによるものです。

また航空宇宙では電子機材が、医用機器では画像診断装置やPCR関連商材が増加しました。

2023年3月期 『ソリューション事業』 品目別売上高

Confidential

(百万円)



ソリューション事業では、ICTソリューションが増加しました。

これは光通信コンポーネントの需要増によるものです。

2023年3月期 貸借対照表の概要

- ▶ 総資産は、商品及び製品、受取手形及び売掛金の増加により 前期末に比べ278億円増加
- ▶ 負債は、短期借入金の増加により 前期末に比べ223億円増加

(百万円)	2022年3月期	2023年3月期	前期末比
資産合計	148,179	175,998	+27,819
流動資産	137,604	166,143	+28,539
現金及び預金	25,245	21,253	△3,992
受取手形及び売掛金	44,215	59,415	+15,200
商品及び製品	30,313	54,558	+24,245
未収入金	35,087	28,914	△6,173
固定資産	10,575	9,855	△720
負債合計	100,604	122,913	+22,308
流動負債	94,746	117,089	+22,343
支払手形及び買掛金	21,121	28,005	+6,884
短期借入金	48,672	69,423	+20,751
未払金	21,855	14,738	△7,117
固定負債	5,858	5,824	△34
純資産合計	47,574	53,084	+5,510



次に貸借対照表の概要をご説明いたします。

総資産は1,759億円となり、前期末に比べ278億円の増加となりました。

資産項目で見ますと、商品および製品が242億円、受取手形および売掛金が152億円増加した一方で、未収入金が61億円、現金及び預金が39億円減少しました。

商品および製品の増加は、半導体需要の増加に伴い、在庫を積み増したことによるものです。

また負債項目につきましては、短期借入金が207億円、支払手形および買掛金が68億円増加した一方で、未払金が71億円減少しました。

2. 2024年3月期 通期業績予想の概要

© 2023 MARUBUN CORPORATION

2024年3月期の業績予想についてご説明いたします。

2024年3月期 業績予想

Confidential

- ▶ 売上高は、民生機器・産業機器向け半導体や医用機器の増加を見込む
- ▶ 売上の増加により為替変動の影響を除いた比較では売上総利益は増加する見通し
- ▶ しかしながら、前年度の円安進行に伴う売上総利益の押し上げ効果のほく落、米ドル金利の上昇に伴う支払利息の増加により、売上総利益・営業利益・経常利益・当期純利益ともに減益の見通し

(百万円)	2023年3月期		2024年3月期		前期比
	実績	売上比	業績予想	売上比	
売上高	226,171	—	236,000	—	+ 9,829 (+4.3%)
売上総利益	27,264	12.1%	25,500	10.8%	△ 1,764 (△6.5%)
販管費	16,267	7.2%	16,750	7.1%	+ 483 (+3.0%)
営業利益	10,997	4.9%	8,750	3.7%	△ 2,247 (△20.4%)
経常利益	7,909	3.5%	5,000	2.1%	△ 2,909 (△36.8%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,201	2.3%	3,000	1.3%	△ 2,201 (△42.3%)



© 2023 MARUBUN CORPORATION

12

2024年3月期の連結売上高は前期に比べ98億円、4.3%増加の2,360億円を見込んでおります。

売上の増加により、為替変動の影響を除いた比較では、売上総利益は増加する見通しです。しかしながら、前年度は円安進行に伴う円換算ベースでの売上総利益の押し上げ効果があったこと、また今年度は米ドル金利の上昇に伴う支払利息のさらなる増加が見込まれることから、営業利益は前期比22億円、20.4%減少の87億5千万円、経常利益は前期比29億円、36.8%減少の50億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比22億円、42.3%減少の30億円を見込んでおります。

2024年3月期 事業別業績予想サマリ

Confidential

■ デバイス事業

(百万円)	2023年3月期	2024年3月期	前期比 (増減率)
売上高	168,872	176,500	+7,628 (+4.5%)

■ システム事業

(百万円)	2023年3月期	2024年3月期	前期比 (増減率)
売上高	54,494	56,000	+1,506 (+2.8%)

■ ソリューション事業

(百万円)	2023年3月期	2024年3月期	前期比 (増減率)
売上高	2,805	3,500	+695 (+24.8%)



© 2023 MARUBUN CORPORATION

13

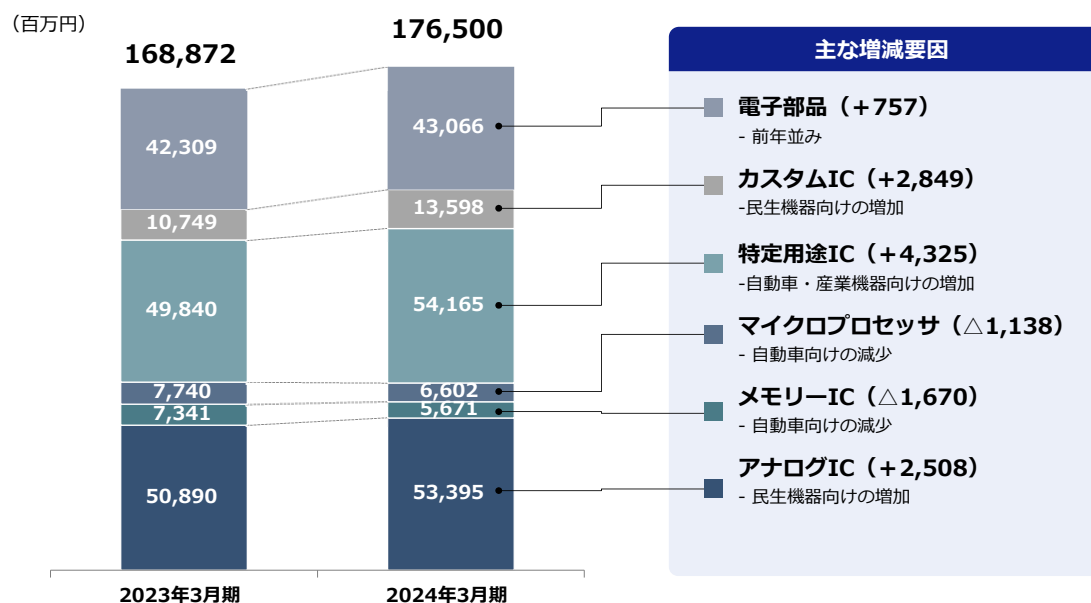
売上の増減要因をセグメント別にご説明いたします。

セグメント別売上高のサマリはご覧のとおりです。

デバイス事業は前期比76億円増加の1,765億円、システム事業は前期比15億円増加の560億円、ソリューション事業は前期比約7億円増加の35億円を見込んでおります。

2024年3月期 『デバイス事業』 品目別売上高予想

Confidential



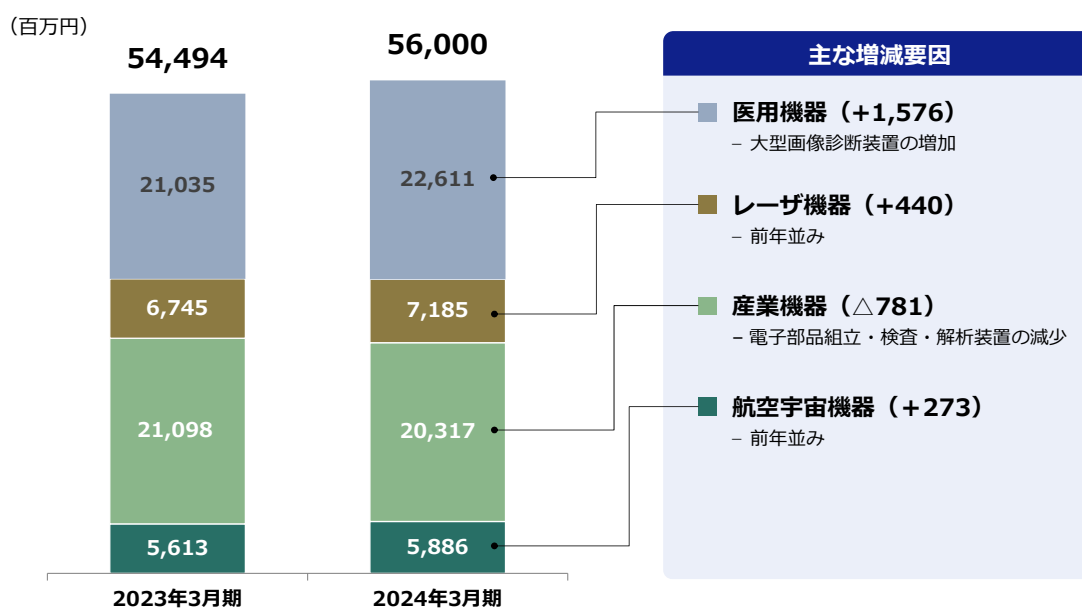
デバイス事業については、アナログIC、特定用途向けIC、カスタムICで売上の増加を見込んでおります。

これは、前年度下期から商権が拡大したヌヴォンテクノロジー社製品の売上が通年で寄与することや、今年度もさらに新規商権・新規案件の獲得を見込んでいることによるものです。

一方、メモリーICやマイクロプロセッサでは、自動車向けの減少を見込んでおります。

2024年3月期 『システム事業』 品目別売上高予想

Confidential

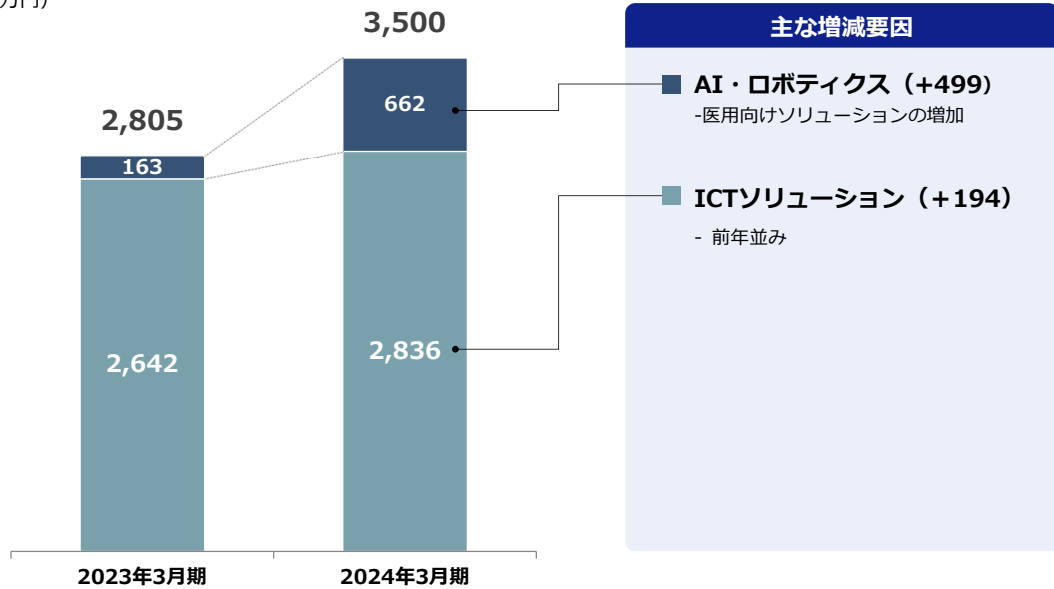


システム事業では、企業の設備投資の減速により産業機器分野で減少を見込んでおりますが、期初の受注残が260億円と前年度に引き続き高い水準を維持しており、医用機器や航空宇宙機器、レーザ機器では増収を見込んでおります。

特に医用機器につきましては前年度、過去最高の売上を記録しましたが、今年度も画像診断装置の増加により売上の一層の伸長を見込んでおります。

2024年3月期 『ソリューション事業』 品目別売上高予想

(百万円)



ソリューション事業では、ローカル5G通信向けソリューションやデータセンター向け光通信装置の増加を見込むとともに、医用向けソリューションの増加を予定しております。

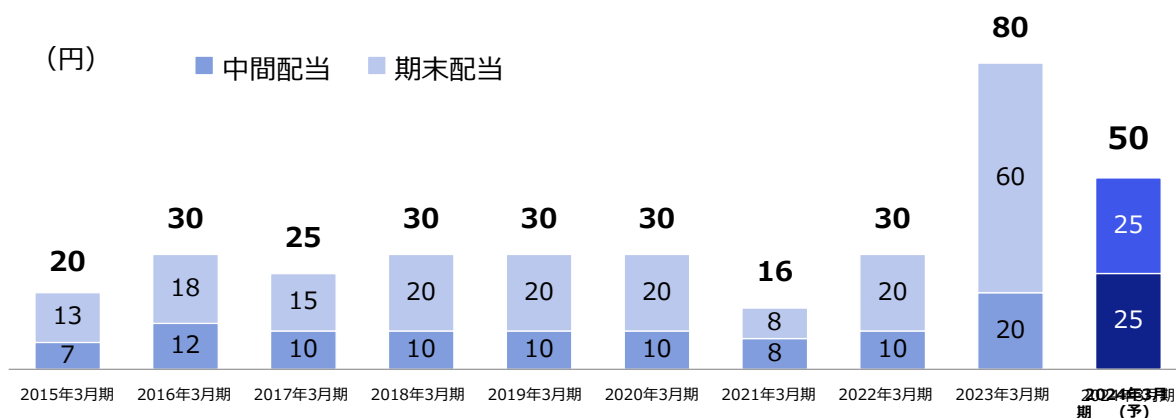
以上、2023年3月期の業績および今年度の業績予想をご説明いたしました。

3. 株主還元

株主還元についてご説明いたします。

▶ 配当方針：連結配当性向40%以上を目安に、継続的かつ業績に応じた配当を実施

2023年3月期 年間配当 80円
(前年比 50円の増配見込み)



2023年3月期の期末配当につきましては60円を予定しております。これにより中間配当と合わせた年間配当は80円となり、2022年3月期の配当実績に対し、50円の増配となります。

一方、今年度につきましては、業績見通しを勘案し、年間50円の配当を予想しております。

業績の向上に邁進し、株主の皆様のご期待にお応えできるよう努めてまいります。

4. 中期経営計画「丸文 Nextage 2024」 の取り組み状況

© 2023 MARUBUN CORPORATION

中期経営計画の取り組み状況についてご説明いたします。

企業 スローガン

『未来をつなぐ、技術で繋ぐ。』

新 中 期 経 営 計 画 基 本 方 針

- | | |
|-------------------------------|--|
| ■ サステナビリティ経営の推進 | 持続可能な成長実現に向けたESG・SDGsへの取り組みを推進し、ステークホルダーとの連携強化や課題解決型ビジネスの実践を通じ、社会的価値を追求します |
| ■ 新たな事業領域への進出と成長基盤の構築 | 新市場・新領域における果敢な挑戦を通じ、新たな事業成長機会を継続的に追求します |
| ■ 既存事業の「選択と集中」の促進とソリューション開発強化 | お客様視点でのソリューション開発を加速しつつ、既存事業の「選択と集中」を通じた競争力強化を図ります |
| ■ グループ経営の強化 | セグメント間（デバイス、システム、ソリューション事業間）連携による付加価値と国内外グループ企業間の連携によるグローバルシナジーを実現し、成果をお客様に還元します |
| ■ 業務基盤の整備と内部プロセスの改善 | 業務インフラ強化や業務プロセス改善、人材育成、働き方改革により、生産性・効率性を向上します |

ご覧のスライドは、昨年5月に発表しました当社の中期経営計画「丸文Nextage（ネクステージ） 2024」の基本方針としてご説明した資料になります。

「丸文Nextage（ネクステージ） 2024」では、『未来をつなぐ、技術で繋ぐ。』を企業スローガンに掲げ、「サステナビリティ経営の推進」および「新たな事業領域への進出と成長基盤の構築」に注力するとともに、既存事業においても「事業の選択と集中の促進とソリューション開発強化」を進めております。

また各事業セグメント間ならび国内外のグループ企業間の連携強化によるシナジー創出を図りながら、業務インフラ強化などの基盤整備と、内部プロセスの改善による生産性、効率性の向上に取り組んでおります。

各事業セグメントの事業戦略の進捗状況およびサステナビリティへの取り組み状況についてご説明いたします。

事業戦略

- 新規商材・新規商権の開発推進
- 既存事業の収益性の維持・向上

■ 新規商材・新規商権の開発推進

- ▶ アナログ・デバイス社と代理店契約締結、民生機器向けを中心に大きく伸長
- ▶ ヌヴォンテクノロジー社の商材が本格的に立ち上がり、新規商権を獲得
- ▶ MPS社・シナプティクス社等、直近数年で追加した仕入先商品の取引拡大



nuvoTon

MPS

synaptics



■ 既存事業の収益性の維持・向上

- ▶ 既存仕入先の取扱い商材、販売先増加による売上伸長
- ▶ デジタルマーケティングによる潜在的な需要の掘り起こし、案件化



最初にデバイス事業の取り組みについてご説明いたします。

半導体・電子部品のディストリビューションを担うデバイス事業は、「新規商材・新規商権の開発推進」と「既存事業の収益性の維持・向上」に取り組んでおります。

「新規商材・新規商権の開発推進」では、昨年9月に高性能なアナログICを有するアナログ・デバイス社と代理店契約を締結いたしました。同社の豊富な半導体製品やソフトウェア技術をラインナップに加え、民生機器向けを中心に売上を大きく伸長させることができました。

また台湾のヌヴォンテクノロジー社の商材も前年度下期から本格的に立ち上がり、新たなお客様との取引が始まりました。そのほかにもアナログICの開発に特化したMPS社やコネクティビティおよびセンシング向けの半導体、ソフトウェアを提供するシナプティクス社など、ここ数年で新たに取り扱いを開始した仕入先の商品も年々取引を拡大しています。

「既存事業の収益性の維持・向上」では、インフィニオン社やブロードコム社をはじめとした仕入先で、取り扱う商材や販売先が増え、売上が伸長しています。デジタルマーケティングも積極的に推進しており、マーケティングツールを用いたデータ分析により、潜在的な需要の掘り起こしを進め、商談に結びつけています。

各事業セグメントの取り組み - システム事業 -

事業戦略

- 新規領域における事業規模と収益基盤の拡大
- 既存領域における競争優位性の強化
- グループ連携の強化

分野ごとの取り組み



航空宇宙機器

- ▶ 衛星搭載用の高信頼性部品、通信コンポーネント商材、地上基地局向け衛星通信商材の取り扱い開始
- ▶ その他、システム提案を行うなど衛星通信分野の取り組み強化



産業機器

- ▶ 高精度半導体検査・実装装置の需要増加による取引拡大
- ▶ 製造現場のIoT化、DX関連商材のさらなるラインナップ拡充



次にシステム事業の取り組みについてご説明いたします。

電子機器・システムの販売・保守サービスを提供するシステム事業では、「新規領域における事業規模と収益基盤の拡大」、「既存領域における競争優位性の強化」、「グループ連携の強化」に取り組んでおります。

取り組み状況ですが、航空宇宙分野では、人工衛星の需要が高まり、民間企業の参入も相次ぐなど市場の拡大が続いております。当社は約50年にわたり宇宙ビジネスに携わっており、衛星搭載用の高信頼性部品や通信コンポーネント、最近では地上基地局の衛星通信を支える商材のラインナップを拡充し、システム提案を行うなど衛星通信分野での取り組みを強化し、需要の取り込みを進めております。

産業機器分野では、車載向けパワー半導体や半導体の微細化・3次元化への関心が高まる中、当社が取り扱う高精度の半導体実装・検査・解析装置への引き合いが増加しております。また製造現場のIoT化やデータの利活用による効率化に寄与するDX関連商材についても、ラインナップの拡充を図っていく計画です。

各事業セグメントの取り組み - システム事業 -

事業戦略

- 新規領域における事業規模と収益基盤の拡大
- 既存領域における競争優位性の強化
- グループ連携の強化

分野ごとの取り組み



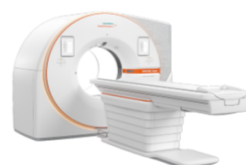
レーザー機器

- ▶ 自動車市場向けに、青色レーザーを用いた金属接合技術の提案
- ▶ 医療市場向けに、2ミクロン長波長レーザーを用いた樹脂接合部品を販売
- ▶ ASEAN地域進出の日系企業対象に販売展開開始



医用機器

- ▶ 主力の大型画像診断装置に加え、超音波診断装置、内視鏡等、新たなラインナップを拡充
- ▶ 放射線治療システムの販売体制を整備
- ▶ 事業エリア拡大に取り組み、市場開拓を推進



※シーメンスヘルスケア㈱ホームページより、画像引用

© 2023 MARUBUN CORPORATION

23

レーザー機器の分野では、EV化の進展により車体の軽量化が求められる自動車市場向けに青色レーザーを用いた金属接合技術の提案活動を行うとともに、医療市場向けには2ミクロンの長波長レーザーを用いた樹脂接合機器の拡販を推進しています。海外への販売展開も開始し、ASEAN地域に進出した日系企業を対象に商流の確立を進めております。

またデータの可視化などデジタル技術の応用で新たな需要が見込まれる医用機器の分野では、主力のMRIやCTなどの画像診断装置に加え、超音波診断装置や内視鏡などのラインナップを拡充し、放射線治療システムの販売体制の整備も進めました。事業エリアの拡大にも取り組んでおり、これまでの北陸・甲信越地域に加え、関東や東海地域の市場開拓を推し進めています。

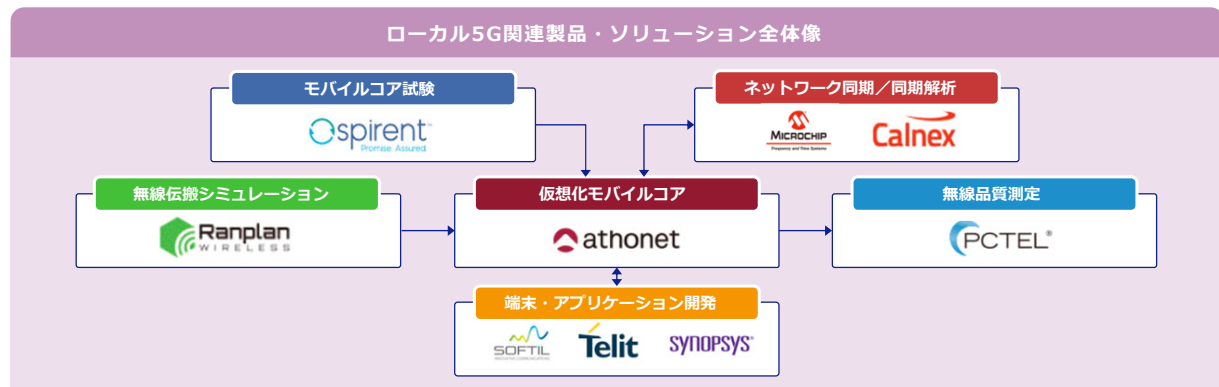
システム事業では、グループ企業間での人的交流も活発に行い、強みである高い専門性に更に磨きをかけながら総合力を活かした商材・サービスを提供していく方針です。

事業戦略

- 高付加価値ビジネスの開発推進
- 新規ビジネスモデルの構築と拡大
- ソリューション開発力の向上とグループシナジーの創出

ICTソリューション

- ▶ ローカル5Gの運用確立を目指した商材とサービスの拡充
- ▶ 本社内にローカル5G基地局を構築中
2023年第2四半期を目途に開始予定



ソリューション事業は2022年度に新設した事業セグメントで、「高付加価値ビジネスの開発推進」、「新規ビジネスモデルの構築と拡大」、「ソリューション開発力の向上とグループシナジーの創出」を目指し、先端ソリューションの開発・販売・保守サービス事業を展開しています。

取り組みを、ICTソリューションとAI・IoTソリューションに分けてご説明いたします。

まずICTソリューションについてですが、ローカル5Gの運用確立を目指し、商材とサービスの拡充に取り組んでおります。無線伝搬シミュレーションや仮想化モバイルコア、無線品質測定、モバイルコア試験などに関わる商材を豊富に取扱うとともに、当社本社内にローカル5G基地局を設置し、自らが5G環境を構築・利用することで、技術力やノウハウを蓄積しております。

オンラインでの保守サービスの導入も検討しており、サービスの向上に一層取り組んでいく方針です。

各事業セグメントの取り組み - ソリューション事業 -

事業戦略

- 高付加価値ビジネスの開発推進
- 新規ビジネスモデルの構築と拡大
- ソリューション開発力の向上とグループシナジーの創出

AI・IoTソリューション

- ▶ ヒューマノイドAIロボットの機能拡張推進
警備業界や宿泊施設への展開拡大を計画

- ▶ 無線給電技術の体験デモルーム開設
システムの拡充も検討中



次にAI・IoTソリューションですが、アイオロス社のヒューマノイドAIロボットのアプリケーション開発を進めています。コロナ禍でニーズが高まった除菌対応や、見守り・監視機能を搭載したロボットはこれまで介護施設を中心に導入を進めてまいりましたが、次のステップとして警備や運搬用途への利用を見込み、警備業界、宿泊施設への展開を計画しております。

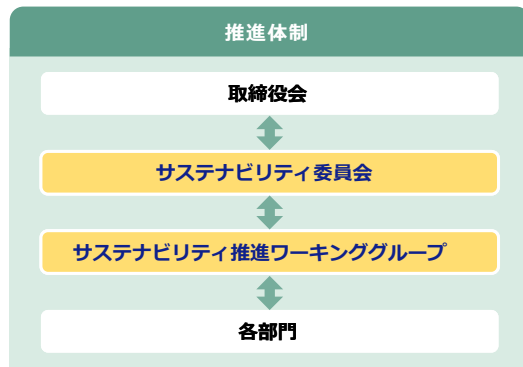
またオシア社のワイヤレス給電のライセンスビジネスでは、デモルームを開設し、お客様に無線給電技術を体験いただいております。今後は、当社とオシア社の技術力を生かし、お客様のニーズに即した製品を開発すべく、システムの拡充を検討しております。

以上、各事業セグメントの事業戦略の進捗状況についてご説明いたしました。

- 当社では、TCFD提言に基づき、以下の項目を網羅しながら気候変動への対応を行っています。

■ ガバナンス

- ▶ サステナビリティ委員会を設置し、取締役会の監督の下で協議・審議

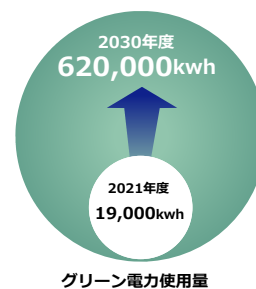


■ 戦略／リスク管理

- ▶ 気候変動のリスクと機会を網羅的に評価し、全社のリスク管理計画に組み込み

■ 指標・目標

- ▶ 当社CO2排出量の約80%を占める電力を順次グリーンエネルギーに切り替え



続きまして、サステナビリティ経営の取り組みについて説明いたします。

当社はTCFD提言に基づく情報開示において、SCOPE1からSCOPE3の温室効果ガス排出量を指標とし、将来に向けた達成目標の設定を検討しています。具体的な施策として、当社CO2排出量の約80%を占める電力のグリーンエネルギーへの切り替えを進めております。

- 多様性を尊重し、社員のスキル・能力を高めていくための各種施策に取り組んでいます。

社員のワークライフバランス実現

- ▶ 在宅勤務、時間単位休暇の導入
- ▶ 介護・育児休暇制度などの整備



女性社員の活躍推進

- ▶ 勤務地の限定、時差出勤制度などの導入
- ▶ 管理職候補者に対する組織マネジメントの学習機会を提供
- ▶ 女性管理職比率の目標達成を目指す

女性管理職比率目標

8.0%

また人的資本の面では、在宅勤務や時間単位休暇の導入、介護・育児休暇制度など社員のワークライフバランスの実現を支援する施策を整備するとともに、女性社員がキャリアを止めることなく活躍できるよう、勤務地の限定や時差出勤制度などを導入し、管理職候補者に対しては組織マネジメントの学習機会を提供しております。女性管理職比率については、2027年度までに8%の水準を達成していくことを目標としております。

- ▶ 「連結経常利益60億円、ROE8.0%」以上を目標とし、収益性と株主資本効率の向上に取り組む
- ▶ 変化が大きい市場環境の中、安定して利益を創出する企業を目指すべく、中期経営計画の財務目標は継続

財務目標（2024年度）

売上高

2,100億円

経常利益

60億円以上

ROE

8.0%以上

（参考）

年度	売上高	経常利益	ROE
2022年度実績	2,261 億円	79 億円	11.5 %
2023年度予想	2,360 億円	50 億円	6.2 %



最後に、中期の財務目標についてご説明いたします。

当社は、「丸文Nextage（ネクステージ）2024」の目標として、2024年度に連結経常利益60億円以上、ROE8%以上の達成を目指しております。

2022年度は期初の業績予想を大きく上回る実績となり、経常利益は79億円、ROEは11.5%となり、中計目標を超える水準となりました。しかしながら、さきほどご説明しました通り、今年度の経常利益は50億円の見通しであることを踏まえ、安定的な利益の創出を第一優先に、2024年度の財務目標は据え置くことといたしました。



グループ一丸となって、中期経営計画を着実に実行し、より強固な収益基盤の確立、企業価値の向上を目指してまいります。

皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

5. 参考資料

© 2023 MARUBUN CORPORATION

企業概況

Confidential

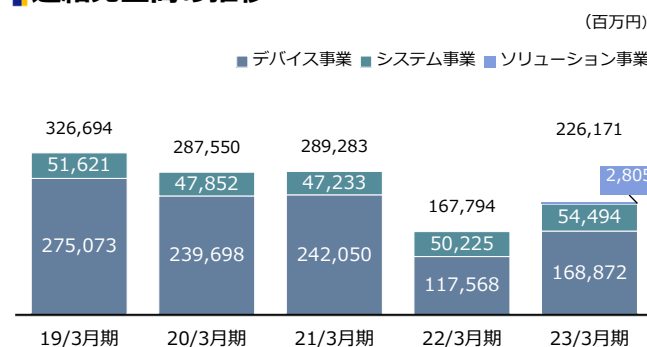
会社概要

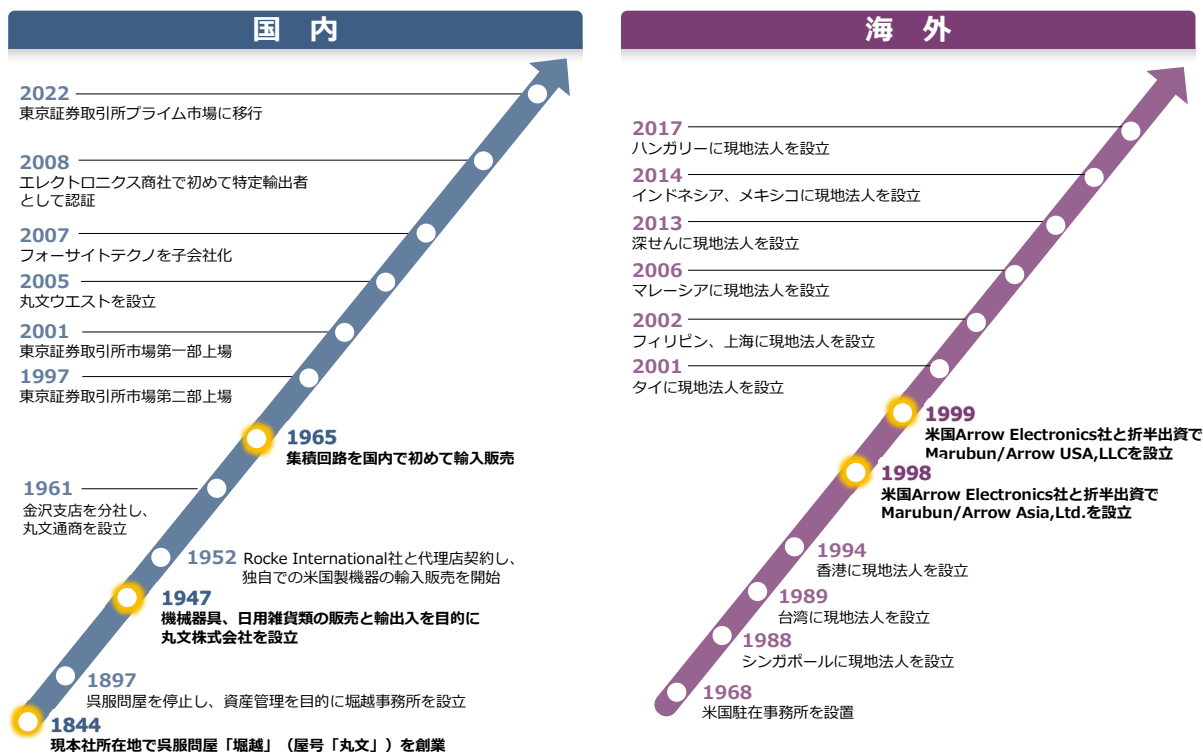
創 業	1844年（弘化元年）
設 立	1947年（昭和22年）7月
所 在 地	東京都中央区日本橋大伝馬町8番1号
資 本 金	62億1,450万円
決算期日	3月31日
代 表 者	代表取締役社長 飯野亨
売 上 高	連結 226,171百万円（2023年3月期） 単体 175,060百万円（2023年3月期）
従業員数	連結 1,117名（2023年3月末） 単体 588名（2023年3月末）
株式上場	東京証券取引所 プライム市場 （コード:7537）

事業領域

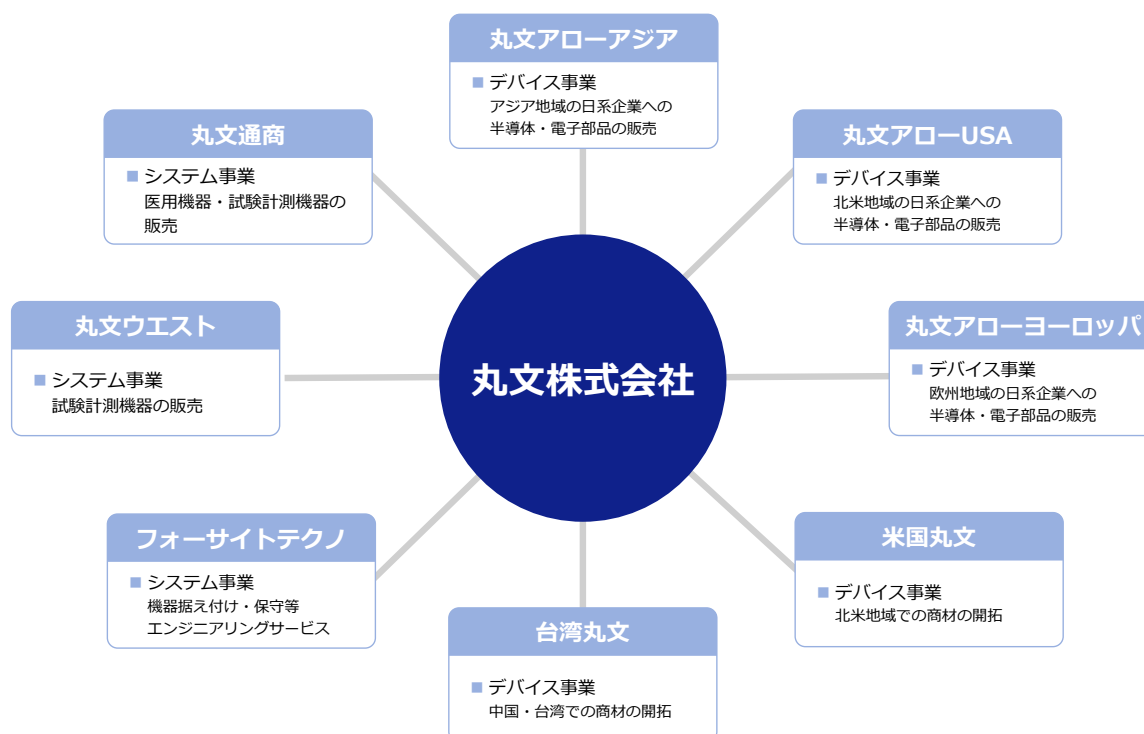
デバイス事業	システム事業	ソリューション事業
- 半導体 - 電子部品	- 航空宇宙機器 - 産業機器 - レーザー機器 - 医用機器	- ICTソリューション - AI・IoT - ロボティクス

連結売上高の推移



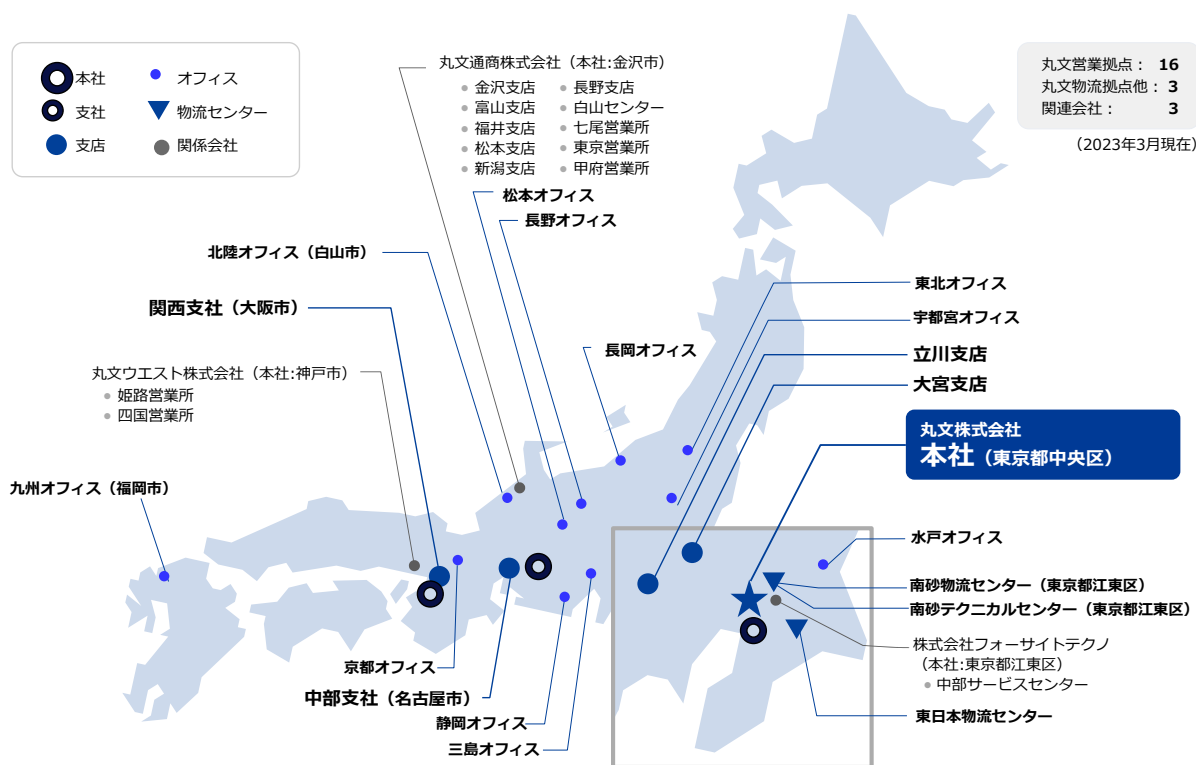


関係会社



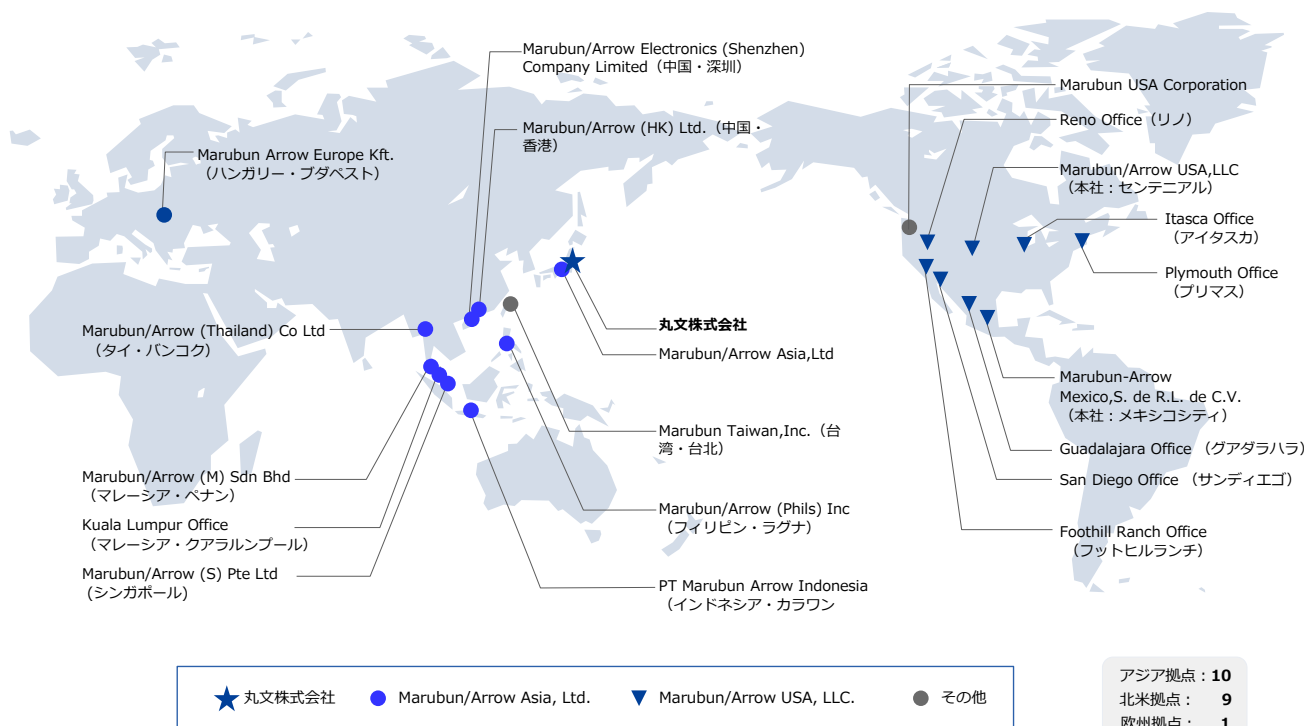
国内拠点

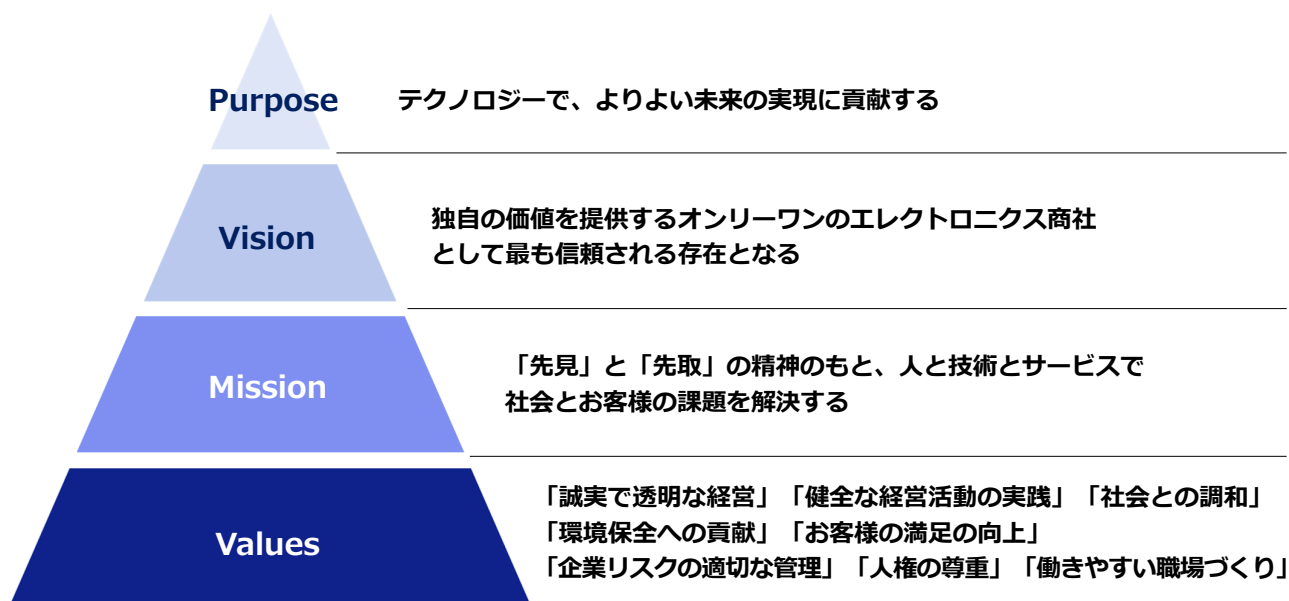
Confidential



グローバルネットワーク

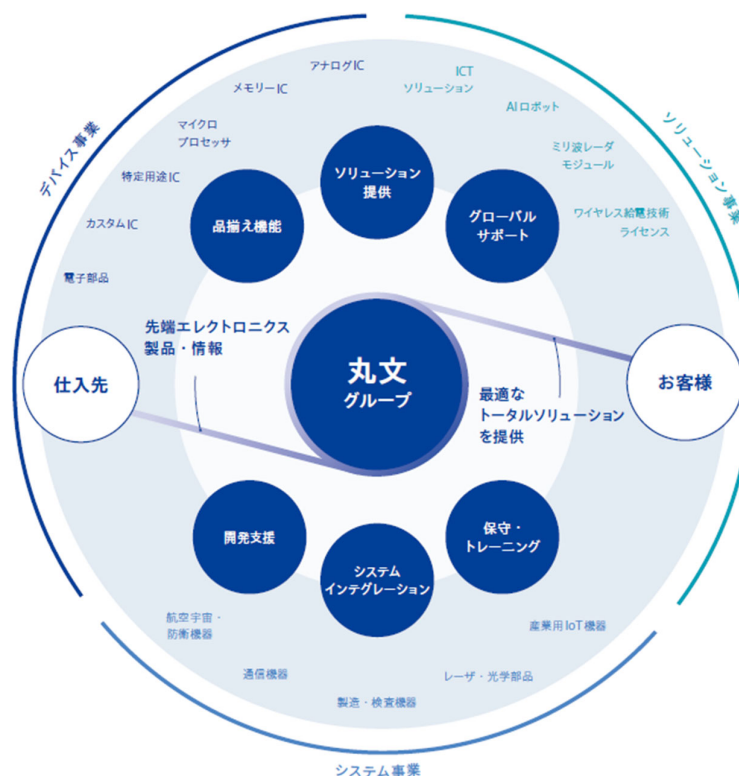
Confidential





事業内容

- ▶ 丸文の「6つの機能」が仕入れから運用までフルサポート
- ▶ エレクトロニクス商社として、「お客様のメリットに直結するソリューション」を最適な形で提供



デバイス事業：主要取扱い製品

品目 主要仕入先 (アルファベット順)	半導体					電子部品		
	アナログIC	メモリーIC	マイクロプロセッサ	特定用途IC	カスタムIC	電子部品	電子機器	その他
	標準アナログ、 センサー、 ディスプレイ	フラッシュ、 DRAM	MPU、MCU、 DSP	ASSP、LED	カスタム、 ASIC、FPGA	ディスプレイ、 水晶振動子、 コネクタ・ スイッチ・基板	IoT機器、 医療機器	パワーサプライ、 ボードPC、 ソフトウェア、 IPライセンス
エイブリック	●	●						
Allegro MicroSystems	●							
Analog Devices	●		●	●		●		
旭化成エレクトロニクス	●		●	●	●			
Broadcom	●			●	●		●	●
eYs3D				●			●	
GOWIN					●			
indie Semiconductor				●				
Infineon Technologies	●	●	●	●				
ISSI	●	●		●				
Microchip	●	●	●	●	●	●		
Molex						●		
MPS※	●							
Nuvoton	●		●	●	●			
Qorvo	●			●				
セイコーエプソン			●	●	●	●	●	
SEMTECH	●			●				
Synaptics			●	●				
TE Connectivity	●					●		
Telit						●		
VISHAY	●			●				●
Western Digital		●						
Wolfspeed	●							

※：Monolithic Power Systems, Inc.

システム事業：主要取扱い製品

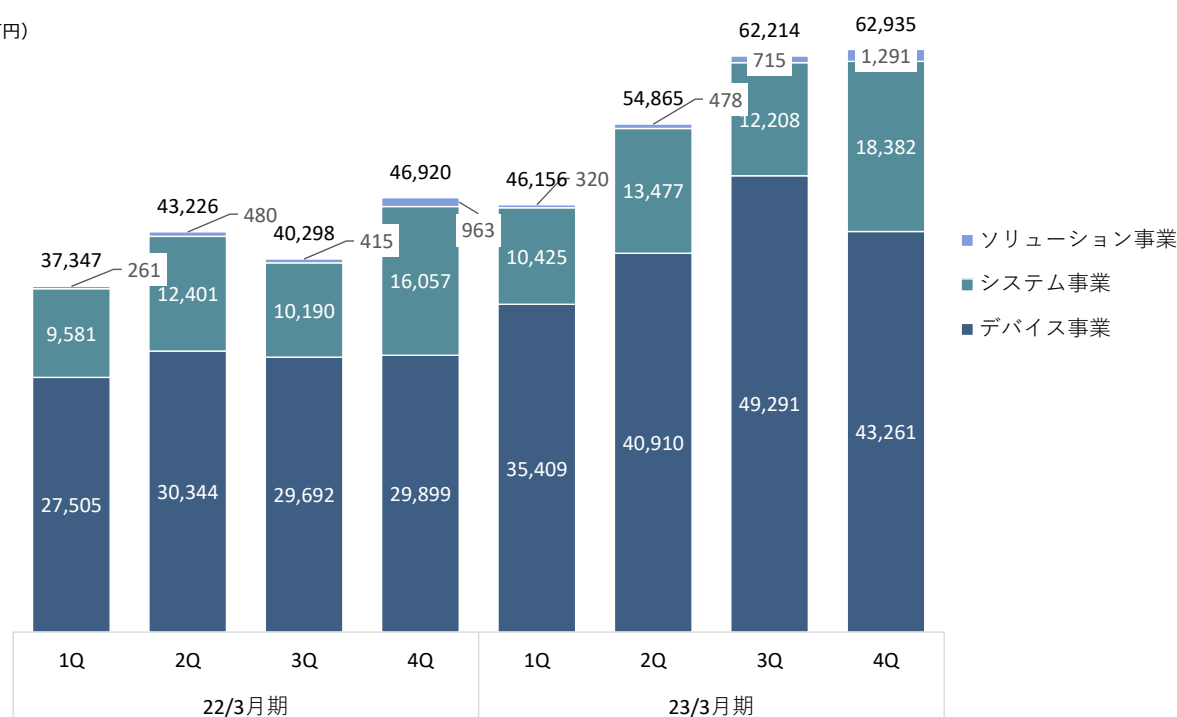
分野	主要商品	主要仕入先
航空宇宙機器		
航空関連機器	レーダーシステム、ポアサイト整備機材、テレメトリ受信・変復調装置、データ収録装置、アンテナ、耐環境ディスプレイ、フライト/ドライビングシミュレータ、係留型飛行船	SAAB AB、Textron Systems、L3Harris Technologies Telemetry & RF Products、Communication & Power Industries、ScioTeq bvba、TREALITY SVS Belgium BV、Ansible Motion、Raven Aerostar
宇宙関連機器	宇宙用高信頼性部品及びコンポーネント、光学エンコーダ、各種ボード機器	Comtech Mission-Critical Technologies、Sensitron Semiconductor、Syrinks、BEI Precision Systems & Space、Aitech Defense Systems、STMicroelectronics
高周波電子機器	クライストロン、進行波管、増幅器、アンテナシステム、導波管及び同軸コンポーネント、電力計	Communication & Power Industries、Bird Electronic
計測機器、各種センサ	各種センサ（加速度、圧力、荷重、マイクロフォン、角速度、変位）、近傍スイッチ、データ収録解析装置、衝突試験用ハニカムバリア、部分放電監視機	ENDEVCO、日本ベーカーヒューズ、日本ハネウェル ジャパン、DTS、G.R.A.S. Sound & Vibration A/S、mg-sensor、電子応用、PLASCORE、IRIS Power
産業機器		
検査装置	3次元X線検査装置、ロックイン発熱解析装置、Wafer検査装置、自動検査システム、ファイバー光学センサ、高分解能分光器	ユー・エイチ・システム、日本エフイー・アイ、日本ベーカーヒューズ、ハイメック、LaVision
製造装置・組立装置	電子部品組立装置、温度特性検査装置、精密接合装置、大気圧プラズマ表面改質装置	アキム、山岡製作所、日本アビオニクス、FUJII、HELLER Industries、SET
組込みソリューション	BUS型CPUボード、各種PCボード、AI Solutions、BUS CPU board、PC board	ADLINK TECHNOLOGY、ASUS IoT、AAEON、AVALDATA、ASRock、DFI、TechNexion、SMART Embedded Computing、Aitech Systems
レーザ機器		
半導体レーザ・レーザ加工機	高出力半導体レーザ、産業用ファイバーレーザ、産業用フェムト秒レーザ、レーザ加工装置	nLIGHT、Laserline、Amplitude、NUTECH、FUTONICS、Scansonic
光学部品	LED、半導体レーザ、フラッシュランプ、キセノンランプ、各種センサ、光学モジュール、光源装置	Excelitas Technologies、Luminus、First Sensor AG/ TE Connectivity、Young Optics、ViALUX、Visitech Engineering、United Power Research Technology
医用機器		
画像診断機器	MRI、CT、DR/X-ray、超音波診断装置	島津製作所、シーメンスヘルスケア、コニカミノルタジャパン、富士フイルムヘルスケア
人工透析機器	人工透析装置、ダイヤライザー、血液浄化システム	日機装、旭化成メディカル、カナカメディックス
臨床検査機器	臨床検査機器	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス、ベックマンコールター

ソリューション事業：主要取扱い製品

分野	主要商品	主要仕入先
ICT ソリューション	RF・IP通信、衛星測位、ネットワーク同期、セキュリティ、IoT	Microchip Technology、Spirent Communications、HUBER+SUHNER Polatis、Coherent、Calnex Solutions、PCTEL、Accedian、Ranplan Wireless、Bristol Instruments、Septentrio
AI・ロボティクス	ヒューマノイドAIロボット、ミリ波レーダモジュール、超小型電力モジュール、カーボンナノチューブ、ワイヤレス給電技術ライセンス、電子聴診器、フレキシブル基板	Aeolus、エスタカヤ電子工業、Acconeer、FINsix、Nanoramic、OSSIA、StethoMe、エレファンテック

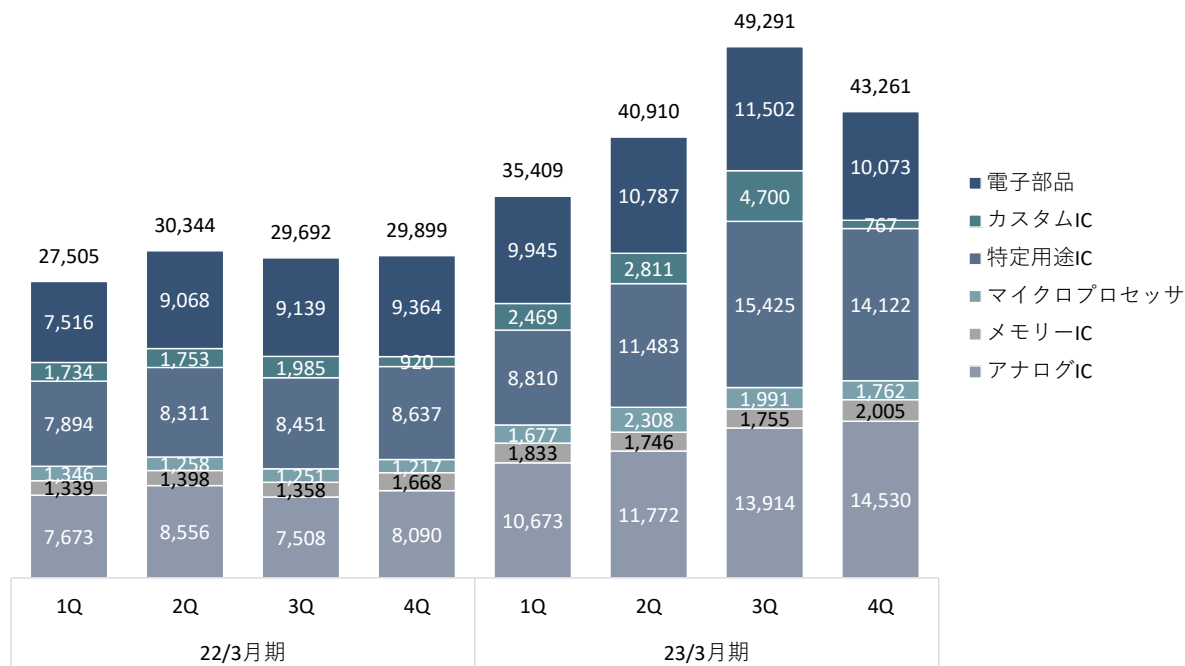
業績四半期推移（事業別売上高）

（百万円）



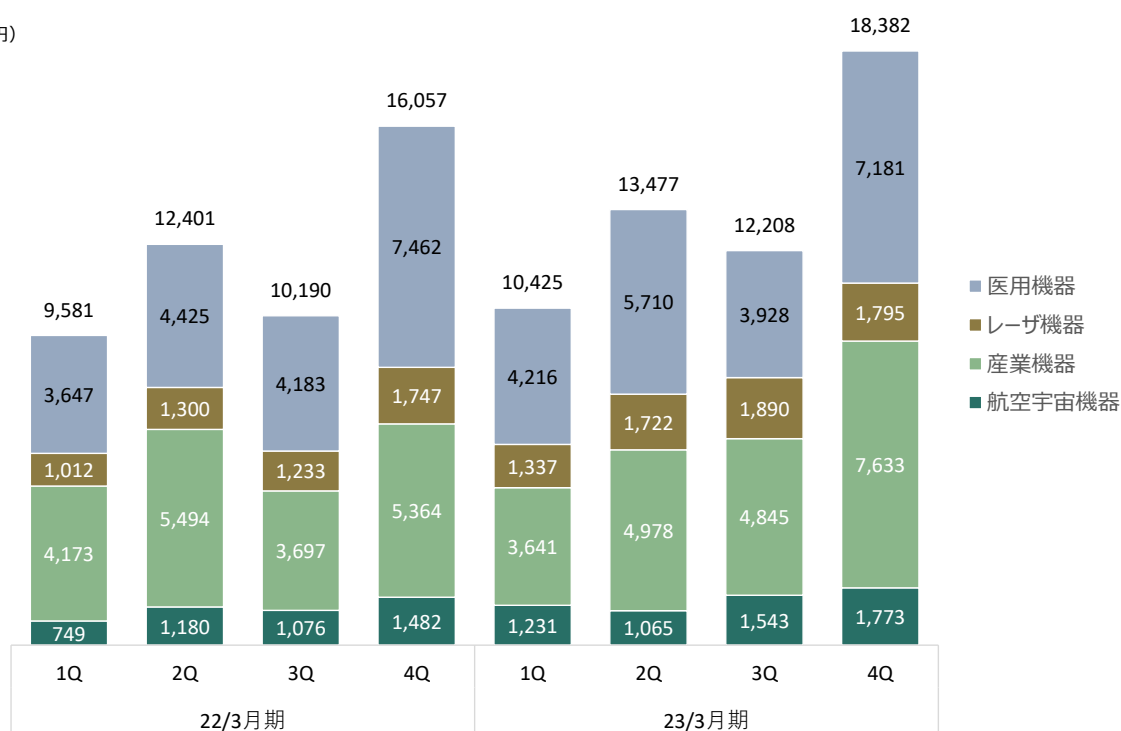
業績四半期推移（デバイス事業：品目別売上高）

（百万円）



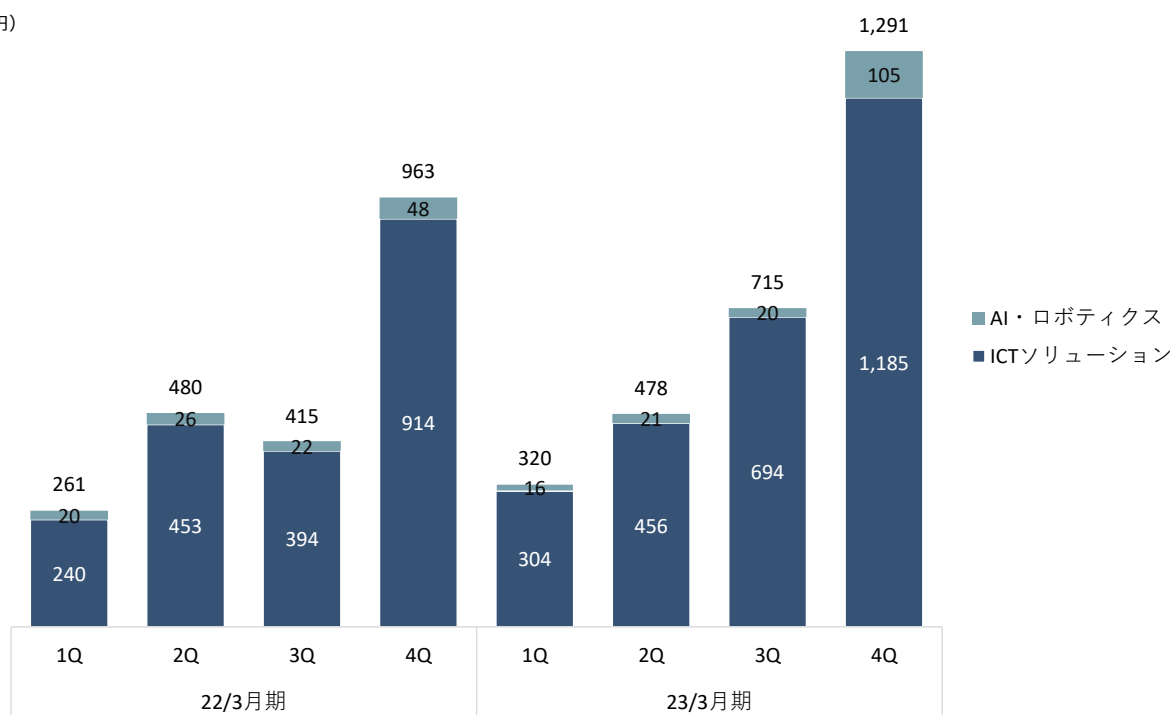
業績四半期推移（システム事業：品目別売上高）

（百万円）



業績四半期推移（ソリューション事業：品目別売上高）

（百万円）



本資料お取扱い上のご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性がありますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社 経営企画部

E-mail : ir@marubun.co.jp